

2025年度 第4号

(通算第30号)

今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

# 湘北SDGs

Think Globally, Act Locally.



## 湘北短期大学のSDGsについて ご紹介するニュースレターです

### ～発行者からのお知らせ～

23年度から、Webサイト湘北SDGsを開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Webサイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決に向けて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。

湘北祭 2025  
オリジナルロゴ



古着回収用ボックスとポスター



あつぎSDGsフェスティバル  
おやこ図書館の展示



学校法人ソニー学園 湘北短期大学

生活プロデュース学科・リベラルアーツセンター

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

### 【学友会の取り組み】

今年も実施！湘北祭の古着回収イベント(2025年10月)

2025年10月18日(土)・19日(日)に開催された「湘北祭2025」では、ベストレーディング株式会社さまとの共催により【古着回収イベント】を開催しました。

今年度は、学生や教職員が持ち込みやすいように湘北祭前の10月1日から回収を始めました。湘北祭当日も多くの方に古着をご持参いただき、総計で約325kgもの古着を回収することができました。ご持参いただいたみなさま本当にありがとうございます。

集められた約325kgの古着は、ベストレーディング株式会社さまを通じて「再生可能な資源」として国内外へ出荷し、そこから得られた利益を厚木市内の子ども食堂に寄付をさせていただきます。

今回の湘北祭2025のテーマは「Magic`魔法のようなひとときを、あなたに`」でした。着なくなった服が、環境にも、地域の子どもの笑顔にも繋がる取り組みは、まさに「MAGIC」です。湘北祭実行委員会をはじめ学友会では、引き続き、持続可能な社会の実現をめざしてSDGsに関する活動に取り組んでまいります。  
(学友会 湘北祭実行委員会運営管理部門)

### 【大学の取り組み】

おやこ図書館が「あつぎSDGsフェスティバル」に出展！  
(2025年9月)

2025年9月21日(日)に開催された「あつぎSDGsフェスティバル」に、今年も「おやこ図書館」としてブース出展を行いました。

今回の展示でも、館内の絵本コレクションの中から「身近な物語を通してSDGsを感じられる作品」を厳選し、約60冊を紹介しました。絵本ごとに、SDGsのどの目標と関わるかを示したラベルを付け、訪れた方が自然とテーマに触れられるように工夫しました。

たとえば、『11ぴきのねこ』は「目標17:パートナーシップ」、『はらぺこあおむし』は「目標2:飢餓をゼロに」というように、物語と社会課題のつながりがひと目でわかるようにしました。

会場では、初めて手に取る絵本に目を輝かせ、「この本おもしろそう！」とページをめくる子どもたちの姿が目立ちました。物語から自然とSDGsのテーマに気づき、興味を広げていく様子が印象的でした。地域のみなさんと、絵本を通じてSDGsについて対話できる大変意義深い一日となりました。

(図書館 高瀬洋子)

## 【高大連携】 高大連携教育研究会で「2030SDGs ゲーム」開催(2025年9月)

2025年9月2日(火)、地域連携センターでは、本学と高大連携協定を締結している31校の高校から12校の先生に参加いただき「第25回 高大連携教育研究会」を開催しました。

高大連携教育研究会は、高校および大学の教育の質の向上を目的として2015年より開始し、年に2回、様々なテーマで高校の先生方と教育手法などの研究発表、事例報告、情報交換を行っています。

今回は、本学のSDGs教育の取り組みについて紹介した後、高校の先生と本学の学生、教職員でチームを組み、一般社団法人イマココラボの「2030SDGs ゲーム」を体験しました。

このゲームは、参加者全員が世界の一員となり、与えられたお金と時間を使って多様なプロジェクトを実行し、チームごとに異なるゴールの達成を目指して2030年まで活動するものです。手元のプロジェクトを行うと、経済、環境、社会に対して、プラスあるいはマイナスの影響を与え、ホワイトボードに示された「世界の状況メーター」が時々刻々と動くため、世界を変えていくには他のチームとの交渉や協力が欠かせません。

初めは、自分のチームの目標を達成するためにプロジェクトを実行していましたが、途中経過の振り返りの際、「世界の状況メーター」の経済のみが発展し、環境・社会の状況が改善されていないことや、目標を達成できているチームよりもできていないチームが多いことを認識すると、後半は積極的に各チームが声をかけあい、「世界の状況」を改善しようと協力し合いながら進めていました。結果として、良好な世界状況の中、全12チームが目標を達成することができました。

参加した先生方からは、「実際に体験することで、SDGsの理解が深まった。高校の教員や生徒にもぜひ体験してもらいたい」、「目標が明確であること、指標が目で見えて分かることが自分の行動に繋がることを実感したため、教員として、その仕組みを考えていきたい」といった感想をいただきました。

今後も本学の学生だけでなく、高校への出張授業等を通じて、若い世代にSDGsの達成に向けた意識づけをすることができるよう取り組んで参ります。



(地域連携センター 高山明日香)